

津波被害地域農業の収益性を向上する商品開発

福島県農業総合センター 企画経営部 経営・農作業科

1 部門名

農業経営－農業経営－その他

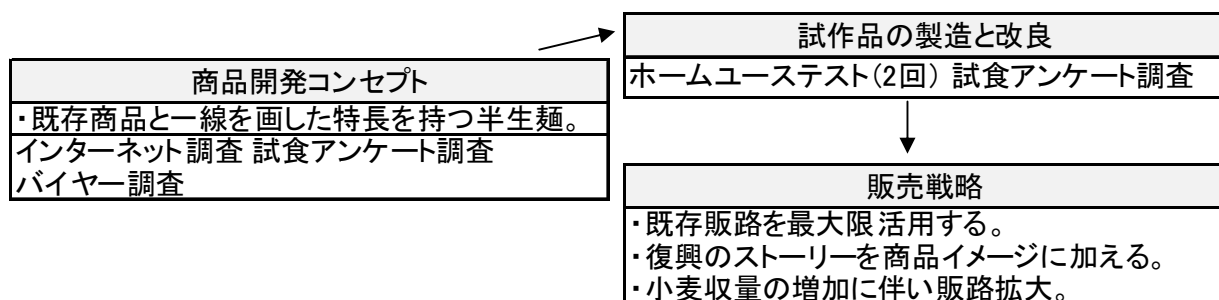
2 担当者

富永 哲

3 要旨

東日本大震災における津波被害地域において、農地の再整備とあわせて新たな生産方式を導入し6次産業化を進め、雇用の受け皿となる高収益農業を早急に実現する必要がある。そのため、津波被害地域で FOEAS が導入され、小麦の本格的な栽培が可能となることを前提とした「うどん」の新商品開発を目的とし、商品コンセプトを定め、関係性マーケティング(新規顧客よりも固定客の獲得)を重視する商品開発を支援した結果、新商品半生麺は既存の乾麺を補完する位置づけとなり、販売先を拡大できる販売戦略を得た。

- (1) うどんの新商品(半生麺)はうどんの既存商品(乾麺)の「のどごしのよさ」とは異なり、「コシ」や「太さ」に特長を持ち、互いを補完し合う新たなシリーズとしての相乗効果が期待できる。
- (2) パッケージは和風で中身が見える横長の形状が好まれる。加えて、震災関連情報を消費者の購買意欲に働きかけるポイントとすることは商品イメージ向上に繋がる可能性がある。
- (3) 新商品は消費期限や価格帯といった制約から、贈答や「うどん好き」のための限定商品として固定客の獲得を図る。
- (4) 地元産小麦の使用は消費者の購買意欲に働きかける大きなポイントとなる。



4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成24年度～26年度
- (2) 研究課題名 「FOEAS」を活用した津波被害地域農業生産システムの高度化 (3) 新商品による販売戦略の構築
- (3) 参考となる成果の区分 (終了参考)

5 主な参考文献・資料

なし